

# 接続料の算定等に関する研究会 代替性検証に関する論点 【固定卸】

2020年1月10日  
ソフトバンク株式会社

## 1. 当社の基本的な考え

## 2. 代替性検証

A) 光サービス卸

B) フレキシブルファイバ(FF)

## 1. 当社の基本的な考え

## 2. 代替性検証

A) 光サービス卸

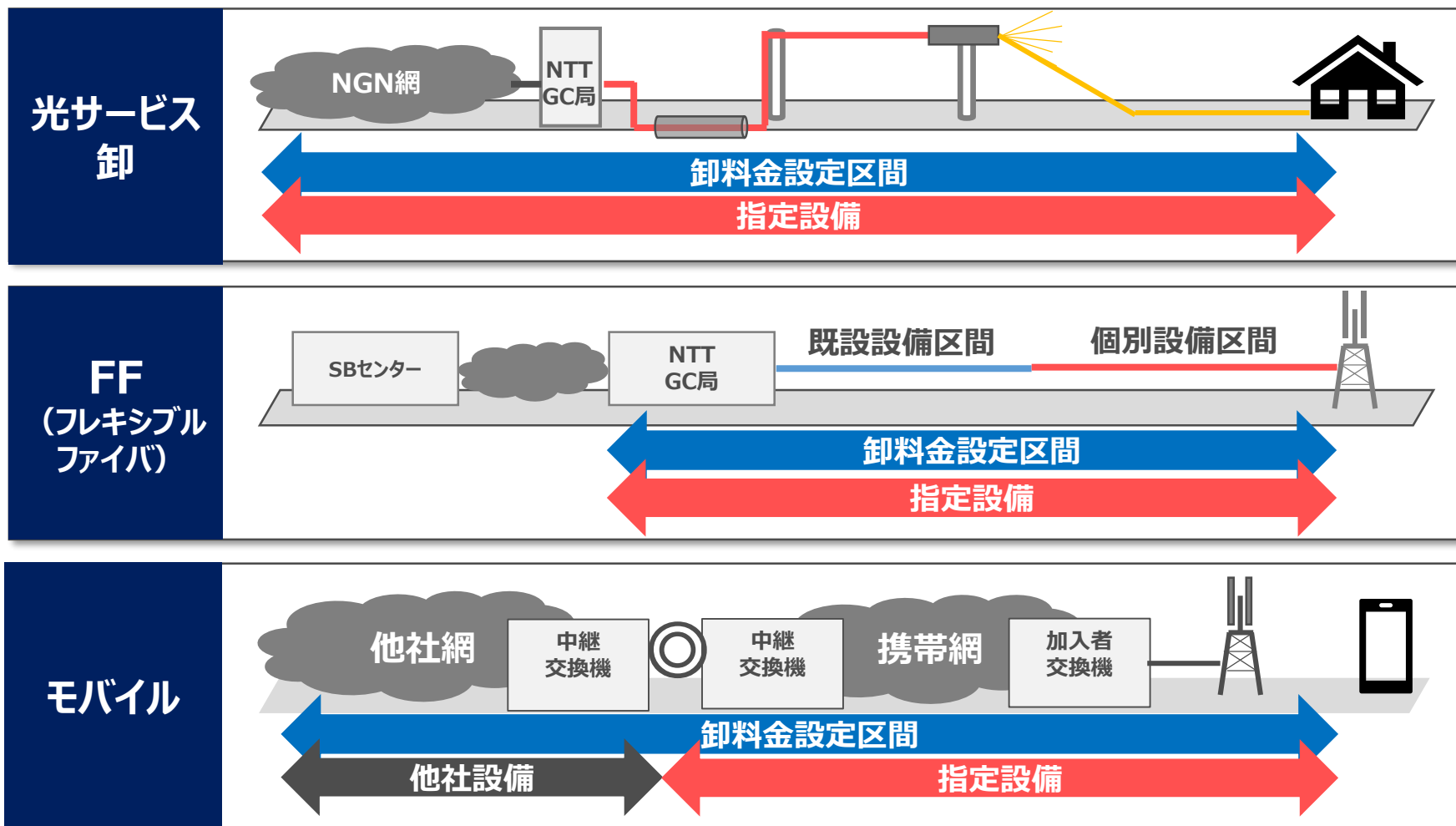
B) フレキシブルファイバ(FF)

- ✓ **卸役務については、「接続」に存在しないメニューも含め、事業者間協議において柔軟なサービス提供を可能としてきた側面があることから、原則として規制はそぐわない**
- ✓ その一方、「指定電気通信設備」を利用する卸役務については、その提供条件について、一定の検証を行う意義はある
- ✓ **但し、「指定電気通信設備」を利用する卸役務を一律に捉えるべきでなく、以下の実態や重要性等を考慮すべき**
  1. 卸料金設定区間が「指定電気通信設備」と合致するか否か(次頁参照)
  2. 「卸」以外に実質的に機能し得る選択肢（代替性）が存在するか
  3. 次世代通信基盤を迅速かつ効率的に構築するために重要な卸役務か否か
- ✓ 当社としては、**第一種指定電気通信設備を利用する卸役務**については、規制根拠たる**設備の不可欠性（ボトルネック性）**及び前項1～3の**サービス提供の実態等の観点**から、重点的な検証並びに規律が必要な役務に該当するものと考え

# 【参考】卸サービス毎の提供形態

## 卸サービスには下記のケースも存在

- 卸料金設定区間と指定設備区間が一致しないケース
- 上記に該当し、且つ、他社の設備区間（指定/非指定設備）を含むケース



1. 当社の基本的な考え

2. 代替性検証

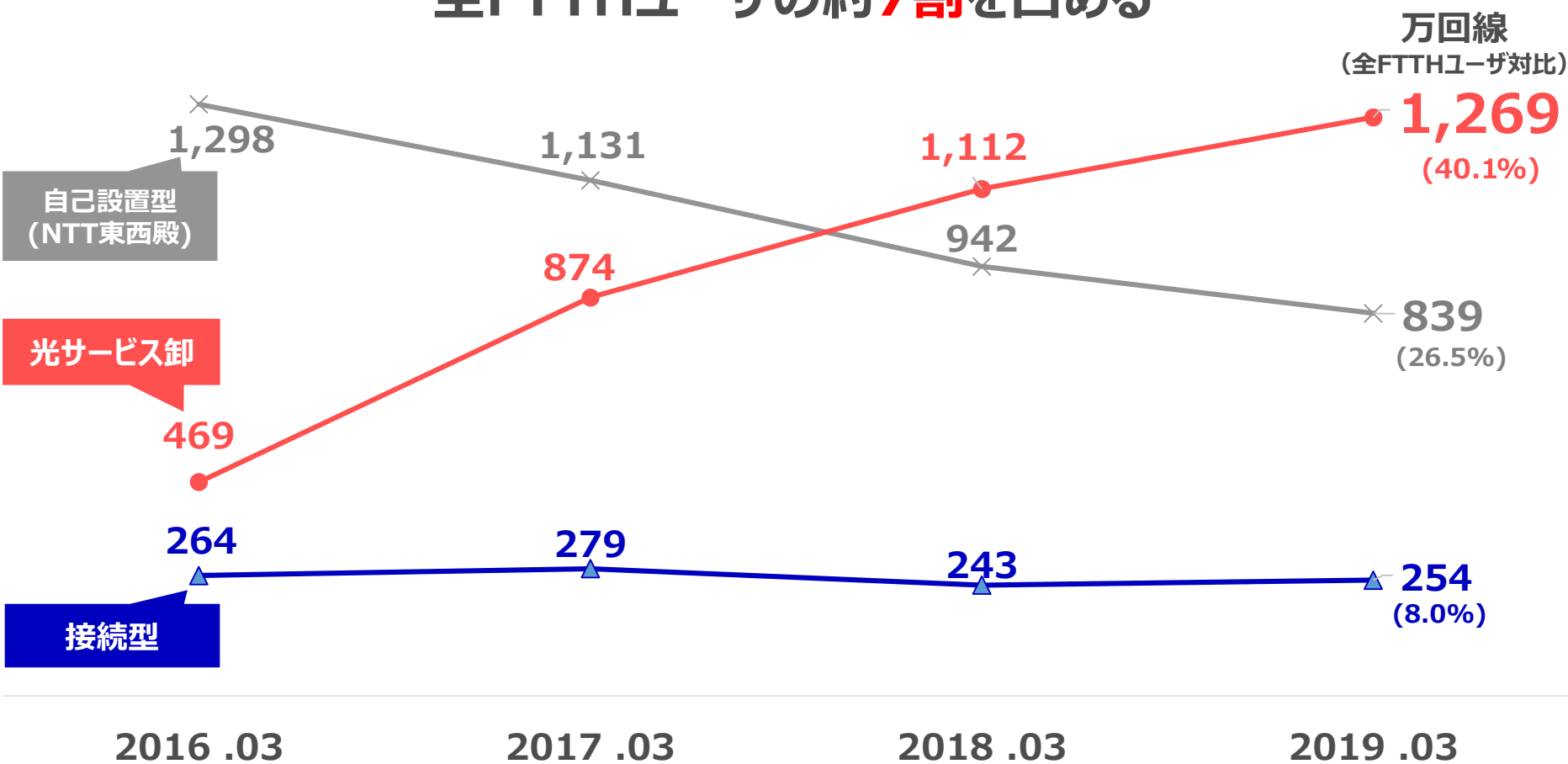
A) 光サービス卸

B) フレキシブルファイバ(FF)

# FTTHの提供形態別契約数の推移

光サービス卸の利用数は**年々増加**  
一方、接続での利用数は**停滞**

**ボトルネック性を有するNTT設備利用サービスが**  
**全FTTHユーザの約7割を占める**



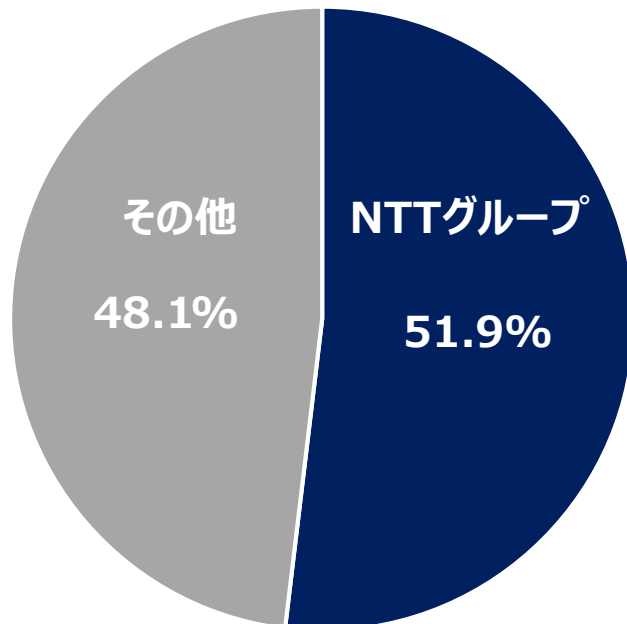
※「電気通信事業分野における市場検証(平成30年度)年次レポート」より作成

# 光サービス卸の提供実態

光サービス卸の契約数シェアの内、  
**NTTグループのシェアが約半数を占める**

NTT東西殿の**料金見直しインセンティブが働かない状況**

光サービス卸契約数シェア  
(NTTグループ)



※令和元年5月28日「NTT東日本・西日本における  
光回線の卸売りサービスの提供状況について(報告)」より



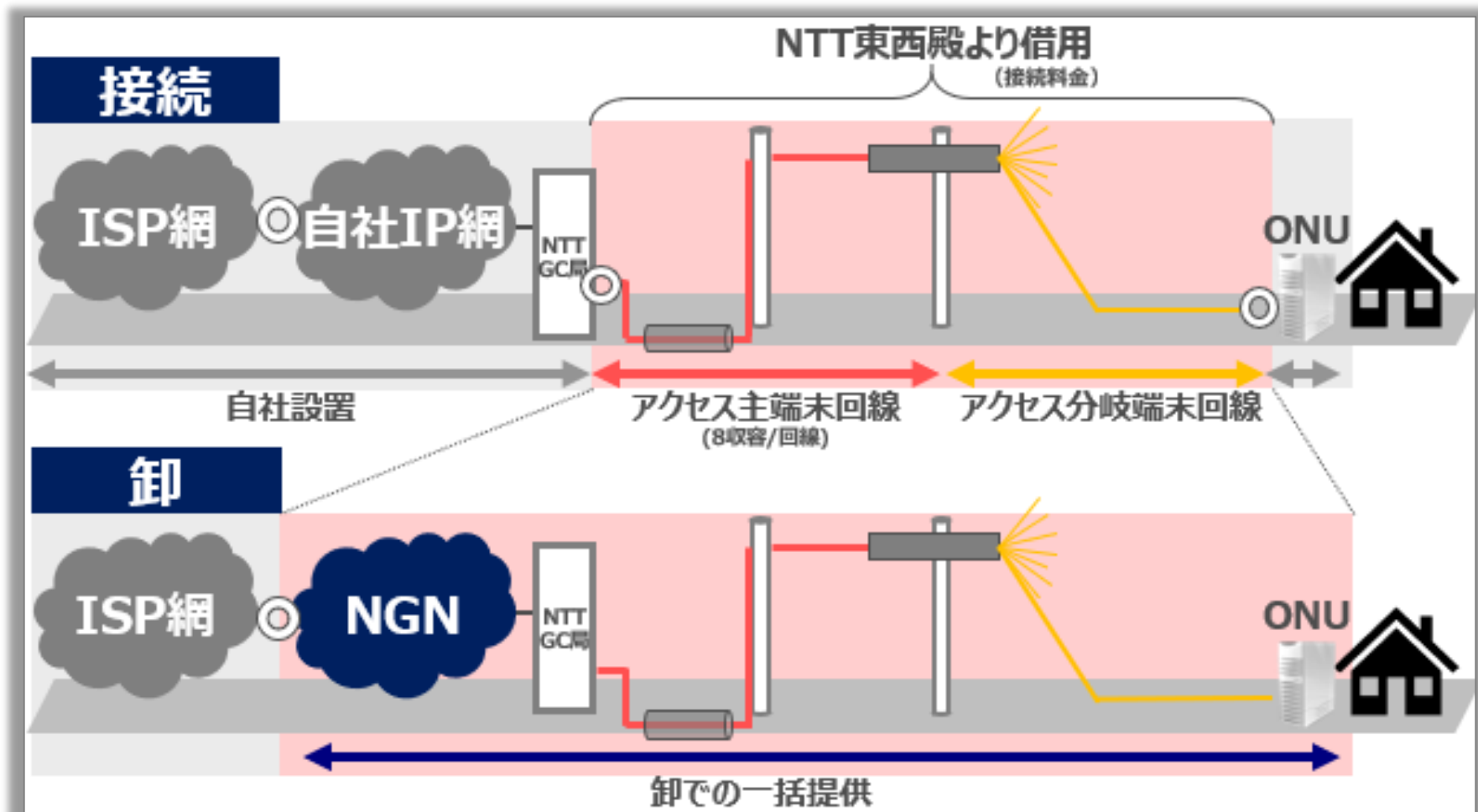
構成員限り



# 接続でのFTTH提供形態と課題

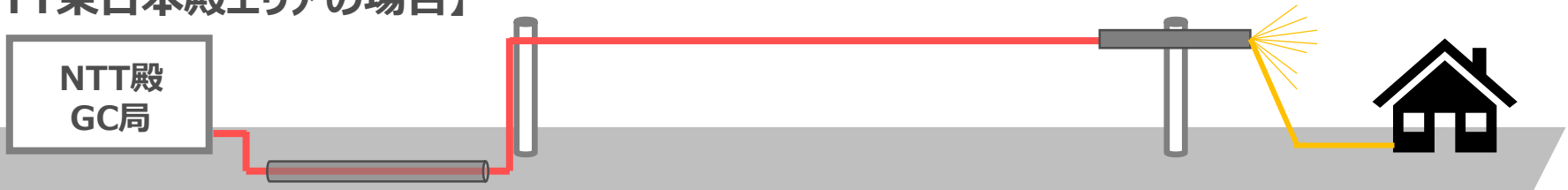
接続でのFTTH提供形態は下図の通り  
主に下記2点課題あり

「①経済的事由 (⇒p10) 」 「②切替の発生 (⇒p11) 」



接続が複数ユーザ収容単位での提供のため、  
**NTT東西殿以外**の事業者では**採算がとれない**

【NTT東日本殿エリアの場合】



アクセス主端末回線(SA) : 8収容毎の提供  
1,802円/回線(FY19接続料)

事業者とNTT東西殿では**原価に大きな差分**がある



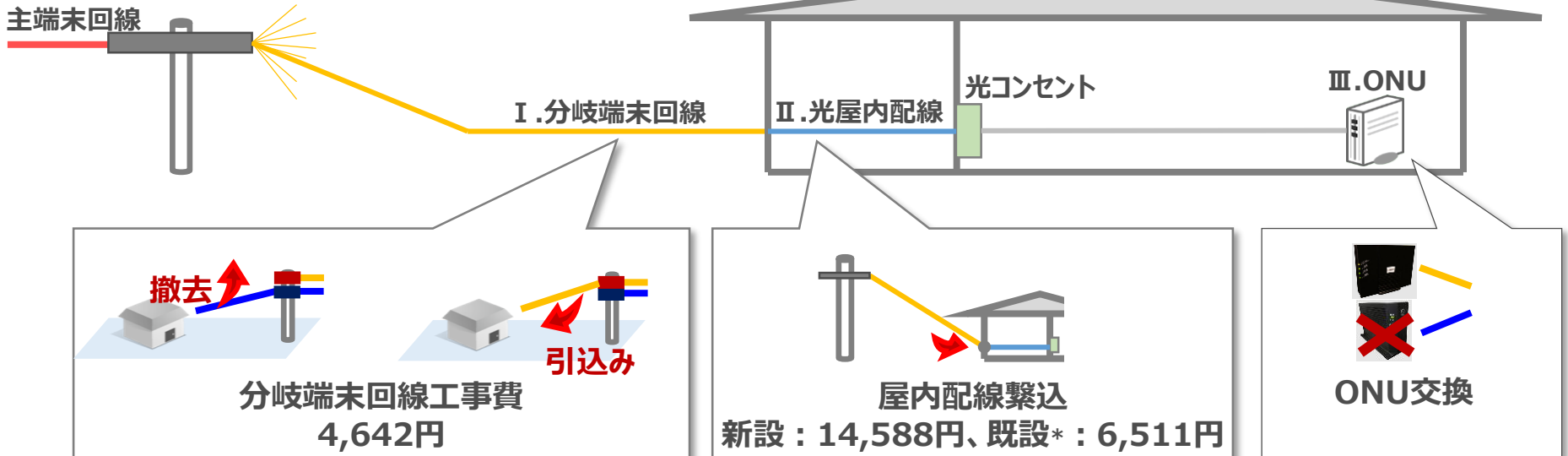
\*1当社の固定系ブロードバンドユーザ全てを光(接続型)に切り替えた場合の試算 \*2平成28年5月18日「申請概要」より

光サービス卸ユーザを接続に切り替える場合、  
以下の理由から**ユーザの切替インセンティブ**が働かない

- ① 接続メニューに係る**再申込が必要**
- ② **切替コストが発生(下図参照)**
- ③ **工事立会等のユーザ負担が発生**
- ④ 申請から切替実施まで**時間を要する**

## 【切替コスト(NTT東日本殿エリアの場合)】 ※FY19の料金適用

※切替期間：1~2ヶ月



\*NTT東日本殿が開通試験を実施する場合。なお、光コンセントを新たに設置する場合は更に5,455円かかる

- ① 接続での提供の場合、加入ファイバの配線ブロック毎に、ある程度の需要を見込む必要があるが、直近のFTTH契約者動向も踏まえれば、今後採算が見込めるだけの**新規獲得を見込める可能性は低い**
- ② 光サービス卸による提供から接続による提供に切替える場合、接続メニューに係る再申込やユーザ立会及び切替コストが発生すること等から、**ユーザの切替インセンティブが働かず、接続での実質的な代替を阻害**

1. 当社の基本的な考え

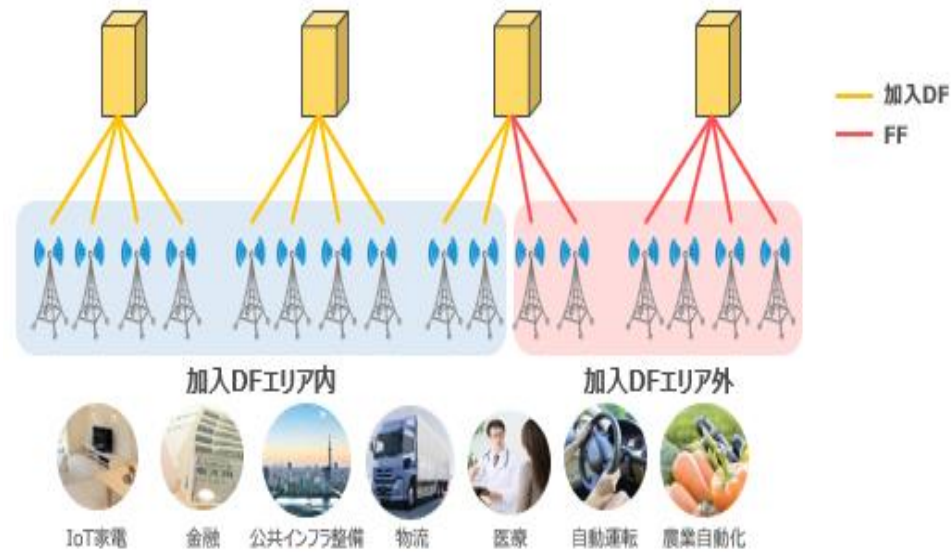
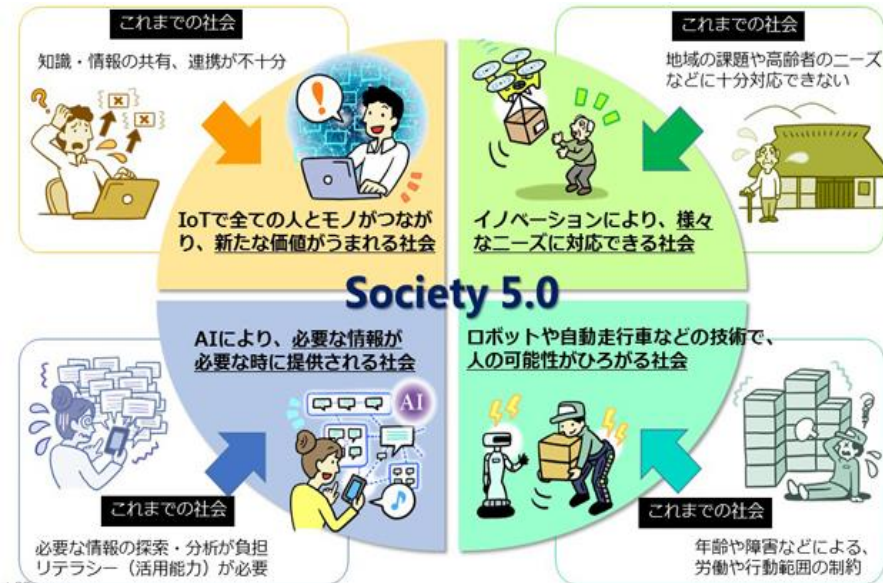
2. 代替性検証

A) 光サービス卸

B) フレキシブルファイバ(FF)

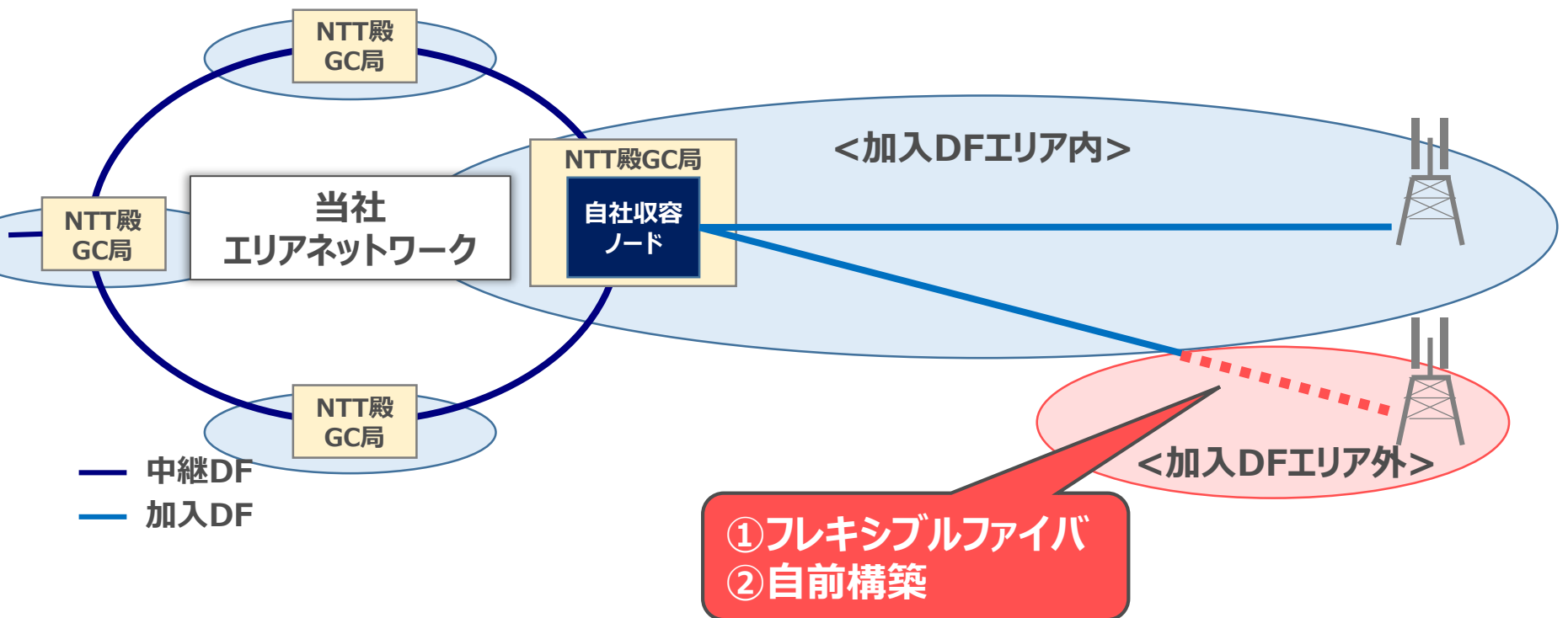
Society5.0では様々な産業での5G活用が見込まれ、これまで光ファイバ需要のなかった山間部などのルーラルエリア含め、**日本全国に5G基地局を迅速に展開していくことが必要**

アクセスとしての**光ファイバの重要性は5G時代に向けて益々高まる**



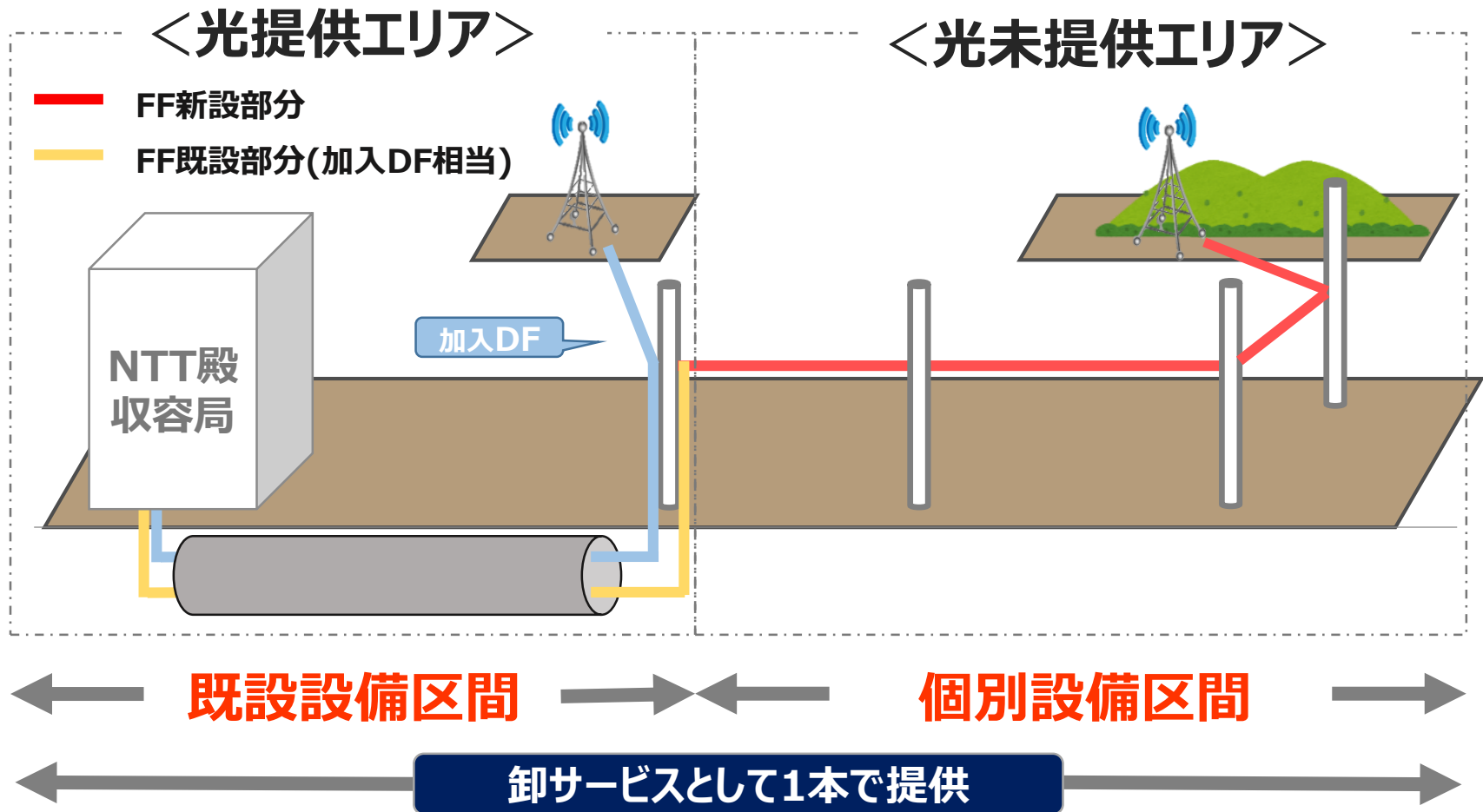
当社の地域NWはNTT殿GC局に自社ノードを設置し、  
中継ダークファイバ(DF)で地域リングを構成

GC局ノードと基地局間は基本的に加入ダークファイバ(DF)で接続し、  
一部加入エリア外についてはフレキシブルファイバ（FF）等を利用





NTT東西殿が光未提供エリアにおいて  
事業者が全額負担する前提で個別要望に応じて提供

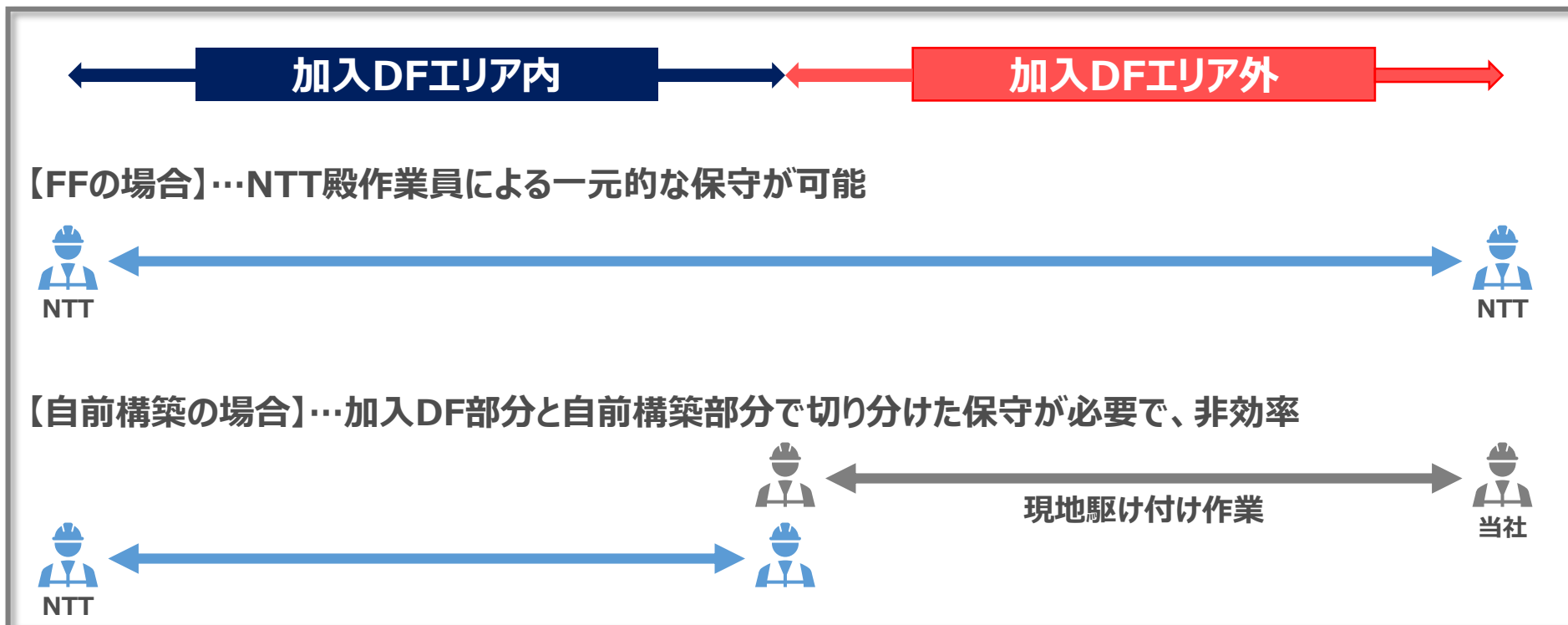


構成員限り

自前構築(加入DF+自前構築回線)の場合、  
以下の点でFFと比較し**実質的な代替性がない**

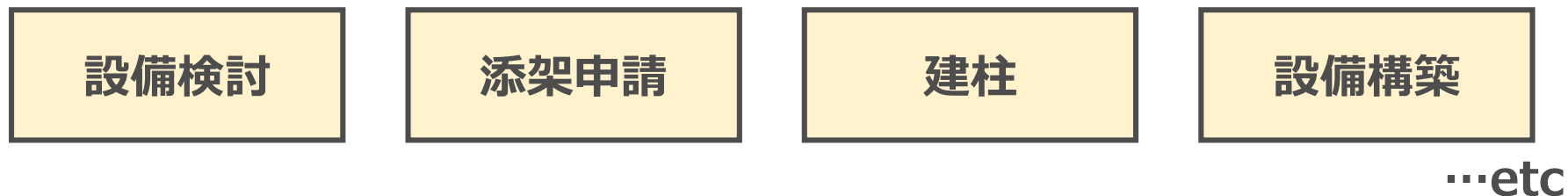
資産区分が二社に跨るため**一元的な保守が出来ず、  
故障切り分け等による事業者間連携が必須となり非効率**

(下図)



基地局回線は大量なオーダーの迅速な構築が求められるが、  
自前構築(加入DF+自前構築回線)の場合、  
**構築スピード・効率面でNTT東西殿に劣後**

【回線構築フロー】



これらの手続・作業をNTT東西殿と同等のスピードで行うには、  
**NTT東西殿と同等の回線構築体制を組む必要あり**

- ① ルーラルエリアを含む光アクセス整備にかかる指定設備卸役務については、**国内における次世代通信基盤の迅速展開や効率的運用・維持の観点**からも、その重要性(規制の必要性)を評価すべき
- ② 自前構築の場合、FFと比較し**保守面や構築スピード面において圧倒的に劣後**し実質的な代替手段となり得ない